

日興エコファンド

追加型投信／国内／株式

ファンドの概要

設定日 1999年8月20日
償還日 2024年8月19日
決算日 原則8月19日
収益分配 決算日毎

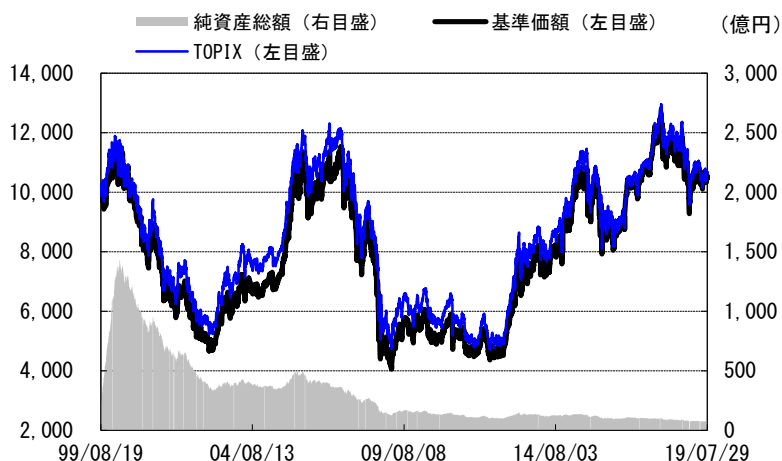
ファンドの特色

- 「環境問題への対応が優れている企業」および「環境ビジネスにおける優良企業」の株式を中心に投資を行ないます。
- 企業の環境対応度に関しては、日本でのエコ調査の先駆者である「グッドバンカー社」が調査・分析を行ないます。
- 中長期的な観点から、わが国の株式市場全体（東証株価指数）の動きを上回る投資成果の獲得をめざします。

運用実績

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

<基準価額の推移>



基準価額 : 10,461円

純資産総額 : 75.90億円

<基準価額の騰落率>

	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
当ファンド	-3.00%	0.99%	-8.47%	18.02%	4.61%
TOPIX	-3.26%	-0.15%	-10.73%	18.33%	6.09%

※基準価額の騰落率は、分配金（税引前）を再投資し計算しています。

<分配金実績（税引前）>

第15期	第16期	第17期	第18期	第19期
2014/8/19	2015/8/19	2016/8/19	2017/8/21	2018/8/20
0円	0円	0円	0円	0円

※上記は過去のものであり、将来の収益分配を約束するものではありません。

※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。
 基準価額の推移は、分配金（税引前）を再投資したものを表示しています。
 ※設定日の前営業日を10,000として指数化しています。
 ※TOPIXに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

運用成果について

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎運用概況

米中首脳会談で米国が中国に対する追加関税の上乗せを見送ったことを受けた、貿易交渉の進展期待などから、7月の国内株式市場は上昇して始まりました。その後は、米国連邦準備制度理事会（FRB）議長の下げに前向きな発言を背景とする、米国の利下げ観測の高まりなどが株価の下支えとなったものの、決算発表が本格化するなか、中国経済の減速を背景に、業績予想を下方修正する企業が出始めたことへの警戒感などから国内株式市場は下落しました。月末の東証株価指数（TOPIX）は前月末比プラス0.90%でした。

当ファンドでは、経営戦略における環境の位置づけ、製造工程における地球温暖化や廃棄物関連対策などの負荷低減策、製品やサービスにおける環境配慮の実態など、環境対策への取り組みが進んでいる企業から銘柄を選別しています。今月は飲料や住宅機器、総合電機などの企業への新規投資や、計測器、半導体製造装置株などの買い増しを行ないました。一方、株価が上昇した電子部品や通信、損害保険株などの売却を行いました。基準価額は、自動車や電気機器、住宅などの保有株が上昇したものの、繊維製品や建設機械、電気機器の一部などが不振だったことから、TOPIXを下回りました。

◎今後の見通し

米大統領は一旦見送った中国製品に対する関税品目の拡大を、9月から発動すると表明しました。米中対立が長期化するようならば、企業が投資を手控える動きが続くなど、世界経済の成長鈍化が避けられないとみています。米国経済は概ね底堅く推移しており、今後もFRBの柔軟な政策金利のコントロールによって安定成長を継続すると考えています。一方、中国経済は経済対策の後押しによる復調が期待されるものの、米中貿易摩擦の影響がより大きいことや、過剰債務の問題などから、成長率が長期的に低下するのは避けられないとみています。

今年度の業績見通しは、上半期は減益ながら下半期から前年比で増益に転じ、年度を通じてみれば概ね横ばい程度とみています。現在の株価水準は株価純資産倍率（PBR）や配当利回りなどの水準からみて割安圏にあることや、株主還元の積極化など日本企業の経営の変化を評価する投資家の買いも入りやすいことなどから、国内株式市場は底堅く推移するとみています。当ファンドでは、環境対策への取り組みが進んでいる企業への投資と適切なリスク管理によって、パフォーマンスを積み重ねてまいります。

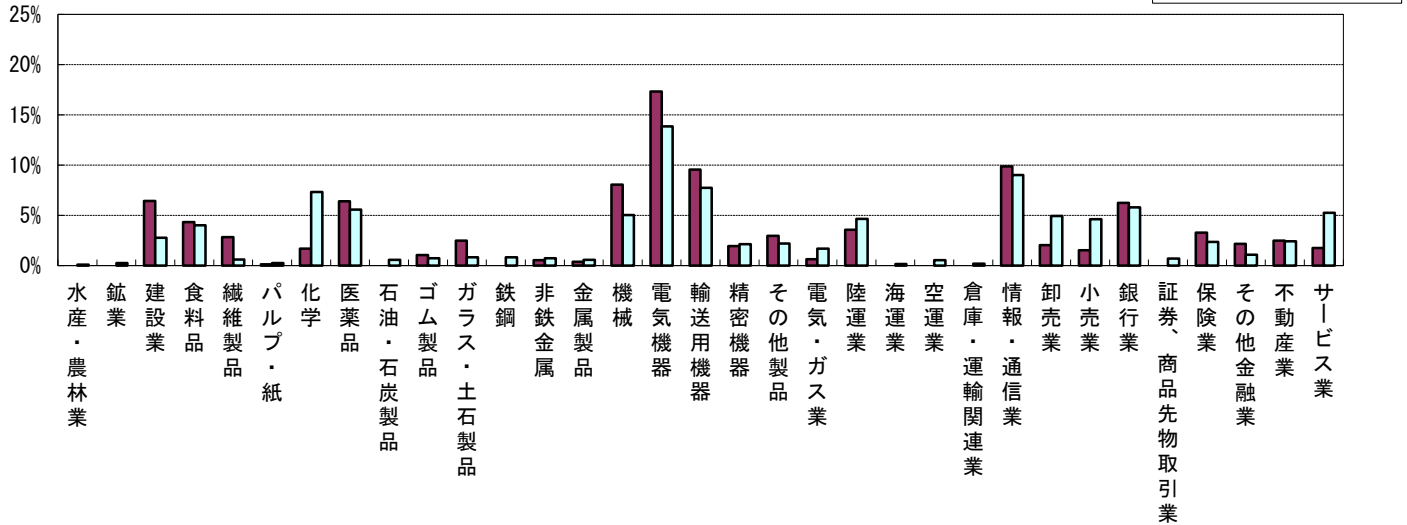
投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオの内容

※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」は純資産総額、「業種別構成比率」は組入株式の評価額の合計をそれぞれ100%として計算したものです。
 ※「業種別構成比」「株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。

＜ベンチマークであるTOPIXと比較した業種別構成比＞



※上記グラフは、ファンドが保有している株式の業種別比率とTOPIXの業種別比率を比較したものです。当ファンドが、どの業種の比重を高めているかをお知らせするためのものです。

＜資産構成比率＞

株式	97.6%
うち先物	0.0%
現金その他	2.4%

＜株式組入上位10銘柄＞（銘柄数 87銘柄）

順位	銘柄	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	5.24%
2	日本電信電話	情報・通信業	3.37%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.10%
4	ソニー	電気機器	3.03%
5	東日本旅客鉄道	陸運業	2.77%
6	ダイキン工業	機械	2.76%
7	東京海上ホールディングス	保険業	2.68%
8	三菱電機	電気機器	2.45%
9	小松製作所	機械	2.44%
10	NTTドコモ	情報・通信業	2.43%

※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

エコ・トピックス

【東京エレクトロン】半導体製造装置で世界3位の当社は、Technology for Eco Lifeのスローガンのもと、最先端の技術とサービスで環境問題の解決をめざしています。2016年7月に改訂した環境方針では「環境目標と継続改善」「法令等の遵守」「製品での環境貢献」「事業活動での環境負荷低減」「社会との連携・協力」の5項目を掲げています。

当社の装置を使って製造される半導体やFPD（フラットパネルディスプレイ）は、モバイル・AV機器やデータサーバーなどの製品として市場に供給され、IoTやビッグデータ、人工知能（AI）などの発展に寄与しています。このため同社では、半導体の省電力化をビッグデータ時代の地球環境における大きな課題と考え、省エネだけでなく、高稼働率、高歩留まりの装置開発に注力しています。

2030年に向けた環境中期目標では、事業所のCO2排出総量を2018年度比で20%削減するとともに、2030年までにウェハー1枚あたりのCO2排出量を2013年度比で30%削減する目標が示されました。2050年に向けた環境長期目標では、環境マネジメントのリーディングカンパニーとして、事業所や製品の環境負荷低減を積極的に推進し、エレクトロニクス製品の低消費電力化に寄与する革新的な製造技術を提供することで、夢のある社会の発展に貢献する、との姿勢を明示しています。

こうした中長期目標実現のため、環境に配慮した製品設計の推進が必要だと考えており、2014年度に設定した「エネルギー使用量を、2018年度までに2013年度比で10%削減する」という目標に向け、2018年度以前に目標を達成した4機種に加え、目標年度の2018年度も、300mmウェハープロセス対応プラズマエッチング装置の1機種でウェハー1枚あたりの消費電力を12%削減するなど、さらに計4機種で目標を達成しました。エッチング工程においては、業界初の高密度プラズマ生成技術をさらに独自に進化させたPICPという技術で、品質安定と生産性向上をもたらし、消耗部品の交換サイクルも長くなるなど、環境負荷の低減につなげています。

2019年度からは、「各ビジネスユニット代表機種で、2030年度のCO2排出量を2013年度比30%削減」という目標を設定し、従来のエネルギーや水だけでなく、プロセスガスや化学物質の使用、製品の設置面積・体積・重量、パーツのメンテナンス頻度軽減や長寿命化、さらには装置立ち上げ期間の短縮なども含めたCO2排出量の削減を進めていくとのことです。

（環境問題にまつわるテーマや企業の取組みなどをご紹介しています。「エコ・トピックス」で採り上げた企業を当ファンドが保有しているとは限りません。）

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／国内／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
信託期間	2024年8月19日まで（1999年8月20日設定）
決算日	毎年8月19日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用があります。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し <u>2.16%*</u> （ <u>税抜2%</u> ）以内 *消費税率が10%になった場合は、 <u>2.2%</u> となります。 ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	換金時の基準価額に対し <u>0.5%</u>
<信託財産で間接的にご負担いただく（ファンドから支払われる）費用>	
運用管理費用 （信託報酬）	ファンドの日々の純資産総額に対し <u>年率1.62%*</u> （ <u>税抜1.5%</u> ） *消費税率が10%になった場合は、 <u>1.65%</u> となります。
その他の費用・手数料	監査費用、組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社
投資顧問会社	株式会社グッドバンカー
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 〔ホームページ〕 www.nikkoam.com/ 〔コールセンター〕 0120-25-1404（午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。）

■お申込みに際しての留意事項**○リスク情報**

- ・投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- ・当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

流動性リスク

市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

信用リスク

投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

為替変動リスク

外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

当資料は、投資者の皆様に「日興エコファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
株式会社足利銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第43号	○		○	
株式会社阿波銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第1号	○			
株式会社伊予銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第2号	○		○	
株式会社岩手銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第3号	○			
エース証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第6号	○			
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社大分銀行	登録金融機関 九州財務局長(登金)第1号	○			
岡地証券株式会社	登録金融機関 東海財務局長(金商)第5号	○			
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○		○	
株式会社北九州銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第117号	○		○	
九州FG証券株式会社	金融商品取引業者 九州財務局長(金商)第18号	○			
株式会社きらぼし銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第53号	○		○	
株式会社きらやか銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第15号	○			
ごうきん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第43号	○			
光世証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第14号	○			
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第593号	○		○	
株式会社佐賀銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第1号	○		○	
株式会社山陰合同銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第1号	○			
株式会社滋賀銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第11号	○		○	
四国アライアンス証券株式会社	金融商品取引業者 四国財務局長(金商)第21号	○			
株式会社十八銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第2号	○			
十六T T証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第188号	○			
株式会社常陽銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第45号	○		○	
株式会社親和銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第3号	○			
株式会社第四銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第47号	○		○	
株式会社大東銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第17号	○			
高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第20号	○			
株式会社中京銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第17号	○			
株式会社筑波銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第44号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
株式会社徳島銀行	登録金融機関 四国財務局長(登金)第10号	○			
株式会社栃木銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第57号	○			
株式会社富山銀行	登録金融機関 北陸財務局長(登金)第1号	○			
株式会社富山第一銀行	登録金融機関 北陸財務局長(登金)第7号	○			
株式会社肥後銀行	登録金融機関 九州財務局長(登金)第3号	○			
株式会社肥後銀行 (委託金融商品取引業者 九州FG証券株式会社)	登録金融機関 九州財務局長(登金)第3号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第152号	○			
フィリップ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第127号	○		○	
株式会社福島銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第18号	○			
株式会社福邦銀行	登録金融機関 北陸財務局長(登金)第8号	○			
株式会社北洋銀行	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第3号	○		○	
株式会社北洋銀行 (委託金融商品取引業者 北洋証券株式会社)	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第3号	○		○	
北洋証券株式会社	金融商品取引業者 北海道財務局長(金商)第1号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
株式会社三菱UFJ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	○		○	○
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
株式会社みなと銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第22号	○		○	
株式会社宮崎銀行	登録金融機関 九州財務局長(登金)第5号	○			
むさし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第105号	○			○
株式会社もみじ銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第12号	○		○	
株式会社山口銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第6号	○			
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第41号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社りそな銀行	登録金融機関 近畿財務局長(登金)第3号	○		○	
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第8号	○			

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。
 ※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。